

氏名	井 口 郁 雄		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2465 号		
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	モアレ法による顔面神経麻痺の程度評価法の開発		
論文審査委員	教授 松尾 信彦	教授 庄盛 敏廉	教授 大本 堯史

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

生後5ヶ月から73歳までの顔面神経麻痺症例38例(男20例・女18例)を対象に、精度高く三次元的に顔面の対称性を表示できる特徴を有し、光の干渉現象を原理としたモアレ法を顔面神経麻痺の程度評価法として応用し検討を行った。

顔面神経各枝の機能をみるため安静時、顔の皺寄せ、軽い閉眼、頬をふくらませる、イーと歯を見せた時の5項目のモアレ写真を撮影し、モアレ縞のパターンによる視覚的、客観的評価を行った後、デジタイザーを利用して入力しパソコンにてデータ処理、解析を行った。

モアレ縞の数、偏りなどでみるモアレ縞パターンは顔面神経各枝の機能をよく反映しており、モアレ縞パターンを観察することによって顔面神経麻痺の部位、程度が一目瞭然と判る特徴をもっていることがわかった。

左右非対称率で検討することにより顔面神経麻痺の定量的評価が可能で、高度麻痺では20-25%、部分麻痺では12-19%、ほぼ正常では5-10%という結果を示した。モアレ法は、短時間に行え顔面神経麻痺の程度評価、麻痺の回復過程を客観的に詳細に評価する際に有用で、視診評価法の欠点を補うことができ再現性のある視覚的、客観的、定量的評価が可能な優れた顔面神経麻痺の程度評価法であると考えた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はモアレ法により顔面神経麻痺の程度評価について臨床的に研究したものであるが、従来十分に確立されていなかった顔面神経麻痺の程度評価法について重要な知見を得

たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。